

## 平成 27 年度 学校自己評価表

香川県立坂出工業高等学校

## ◆学校運営方針

学 校 運 営 方 針	評 価
基礎的な知識や技術・技能の確実な定着を図り、ものづくり等の体験を通じた教育活動を推進して工業のスペシャリストを育成するとともに、道德教育を充実させ地域を担う社会人となるようバランスのとれた教育を行う。また、地元企業や地域住民との連携を強化し、教育活動への支援を得るとともに、災害時避難の対応等で支援を行う公的機関としての態勢を構築するなど、共助の関係を有する学校運営を行う。	A

## ◆重点目標

	目 標 ・ 内 容	目標別評価
1	<b>確かな学力の育成</b> 将来の工業を担うスペシャリストを育成するため、基礎的・基本的な知識や技術・技能を確実に習得させるとともに、実践の中で言語活動の充実を図り、課題解決に必要な思考力や判断力、表現力を育てる。	B
2	<b>キャリア教育の推進</b> ものづくりや資格取得指導をとおして、望ましい職業観・勤労観を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、将来を見据えた進路の実現に向けて挑戦する態度を養う。	B
3	<b>地域と連携した信頼され魅力ある学校づくり</b> 積極的な地域との交流や貢献活動をとおして、地域社会の一員としての自覚を持たせ、豊かな感性やボランティア精神を培うとともに、郷土愛の態度を養う。	A
4	<b>社会人としての規範意識の醸成</b> 道德教育の充実を図り、職業人として必要な規範意識・倫理観等を醸成するとともに、自他を敬愛し、人権や礼儀を重んずる態度を養う。	A
5	<b>豊かでたくましい心の涵養</b> 活発な部活動を通して、協調性・社会性を育むとともに、強健な心身と自主自律の精神を涵養する。	A

## ◆評価段階

A	達成できた
B	おおむね達成できた
C	あまり達成できなかった
D	達成できなかった

各分掌・学科の重点目標

重点目標	分掌	平成27年度 計画		平成27年度 評価		
		目標	目標達成のための具体的方策	成果と課題	評価	課題解決のための方策
1 確かな学力の育成	教務部	学習習慣の定着と基礎学力の向上	(1)学習習慣の定着を図るため、始業前に自主学習の時間を設ける。 (2)基礎学力を向上させるため、考査の事前・事後に補習や面談などを行う。	(1) 定期考査、実力テスト、漢字テスト、英単語テスト前などに朝10分間の自主学習の時間を58回設けることができた。しかし、行事等で自主学習の時間を確保できなかったこともあった。 (2)成績不振者に対して、各考査後に特別指導を実施した。	B	(1)自主学習の時間を確実に実施できるよう計画段階で調整する。 (2)引き続き実施するが、よりよい時期なども検討する。
	教育研究部	授業研究の推進	次の3点を念頭に置いて、創意工夫をこらした研究授業を実施する。 ①生徒の言語活動を充実させる。 ②授業内容に興味・関心を持たせる。 ③理解を深める。	本年度は初任者を中心として、各教科・学科で生徒に興味・関心を持たせ、言語活動を充実させるための研究授業を11回実施し、合評会の内容を全職員で共有することができた。 時間割の関係で限られた職員しか参観できない点が課題である。	A	今後は研究授業を多くの職員が参観しやすい態勢を作るために時間割の工夫を考える。
	機械科	基礎学力および思考力・表現力の育成	(1)基礎的・基本的な知識の習得の確認のため、標準テストを活用し合格点を狙う。 (2)言語活動の充実を図るため、課題研究の報告書作成において国語科と定期的に連携する。	(1)計画的な指導により、合格者数、平均点ともに増加した。 (2)特に各種大会に出場する班は、作品の完成に時間を取られ、言語活動のための時間がまだまだ不足であった。	B	生徒にとって重要なことなので、この指導を継続する。
	電気科	資格取得の充実	(1)第2種電気工事士の最終合格率70%をクリアするため、生徒にあった内容の課外や補習を行う。 (2)第1種電気工事士やDD3種、電験3種などの資格取得に挑戦できるよう、基礎学力を高める。	(1)筆記試験はクリアできたが、その後の技能試験を含めると最終合格率は70%に届かなかった。試験が、上期と下期に実施されるので、その対応を考える必要がある。 (2)第1種電気工事士は筆記試験の合格率が50%、その後の技能試験は80%の合格率であった。第2種の試験日と前後するのでその対策を考える。	B	受験の時期や指導時間について、部活動との調整する。
	化学工学科	資格取得の充実	次の2点を達成するため、生徒に応じた課外や補習を行う。 ①甲種及び乙種全類取得表彰生徒を出し、危険物乙種取得率90%を目指す。 ②公害防止管理者ダイオキシン類関係に合格させる。	①甲種の合格者は出せなかったが、それに匹敵する乙種全類合格者が10名出た。乙種の合格者は82%(3年生)であり、90%に僅かに届かなかったが、一定の成果を上げた。 ②公害防止管理者ダイオキシン類関係に2名合格者を出した。また複数の科目合格生徒も出せた。 ①、②いずれも課外授業等計画通り実施できた。	B	乙種第四類合格者をさらに増やすため、個別指導なども取り入れた課外を引き続き行う。 公害防止管理者資格も、次年度も合格者が出るよう、課外などの指導を引き続き行う。
2 キャリア教育の推進	進路指導部	進路指導の充実	(1)進学の目的とそのために必要な知識・学力についてしっかりと理解させるため、HRなどの時間を活用する。 (2)学力を把握するため、校外模試等を4回程度実施し、積極的に受験させる。 (3)自己実現のため、自らが行動して情報収集や学力の向上ができるよう必要な指導や手助けを行う。	(1)進路に関するHRを1・3年は3回、2年は2回実施した。また、各学年で進路ガイド等も実施し、生徒に必要な知識や学習方法について学ぶ機会を設けることができた。 (2)1名ではあるが、進学コース以外からも校外模試を受験した。 (3)進学説明会やオープンキャンパス等の案内を全校生徒に積極的に行ったが、参加者のほとんどは3年生であった。自己実現のために自分から行動するにはまだ至っていない。	B	(1)引き続きHRや進路講演会、ガイダンス等の進路講座を開催して進路実現に繋げる。また、生徒の希望も年々多様化しているので、個々の生徒に応じたきめ細やかな指導も継続する。 (2)今まで通り継続して取り組む。 (3)1年次より進路HRや担任などを通じて、進路に関する情報を今まで以上に伝える。
	進路指導部	職業観・勤労観の育成	働き生きることの尊さを実感させ、勤労観や職業観を育成し、職業人として必要な規範意識や倫理観を醸成するため、インターンシップや企業見学等を行う。	インターンシップは建築科3年が6月、他学科の2年が11月に実施した。また、工場実習や企業体験実習も活発に行われ、生徒は働き生きることの尊さを実感し、勤労観や職業観を育成する機会を得た。	A	工場実習で感じたことやインターンシップを経験したことで学び得たものを、目に見える形でさらに活かせるよう、指導の形態や方策を検討する。
3 地域と連携した信頼され魅力ある学校づくり	教務部	信頼される学校づくり	行事などでの来校者を増やすため、ホームページや坂工だより、報道提供を通じて、地域や家庭への情報提供を十分に行う。	坂工だよりは2月までに年5回発行した。また、坂工展開催などの報道提供を5回行った。その結果、体育祭では昨年度の倍以上、坂工展でも約600名もの方々に来校していただくことができた。	A	引き続き、情報提供を十分に行うとともに、さらに有効な発信手段などの研究も行う。
	情報教育・管理部	ホームページの充実 ICT活用のための活用促進	(1)職員に対して、定期的に情報セキュリティの周知・連絡をする。 (2)ホームページの内容について検討会を開催する。 (3)タブレット端末、コンピュータなどのメディア機器を活用した研究授業を実施する。	(1)各職員室・準備室の個人情報管理台帳を整備した。 (2)本校のトピックスについては、先生方の協力のもと、概ね更新できた。 (3)教室に整備している校内LANのネットワークを活用して一教室ではあるがWi-fi環境の中でタブレットPCが活用できる提案を行った。タブレットPCを使った研究授業、面接指導、あるいは課題研究で有効活用することができた。今後はコンテンツの充実が求められる。	B	(1)、(2)は来年度も引き続き実施する。 (3)コンテンツを充実させるための調査・研究・検討を行う。
	保健部	教育環境の安全確認と健康の保持増進	(1)教育環境の保全を意識させるため、学校薬剤師が実施する水質・照度・空気各検査を生徒保健委員が一緒に行う。 (2)「保健だより」を充実させ、毎月発行する。	(1)水質検査は実施することができた。照度検査は天候のため当初予定した日程が変更となり、生徒は参加できなかった。空気検査については2月に実施予定である。 (2)予定通り毎月発行できている。生徒が保健だよりを作成することで、健康等への意識が高まり、また他の生徒も興味を持って読むことができた。	B	(1) 照度検査は天候に左右されるので、予備日を多めに設け、それぞれに保健委員を配置しておく。 (2) 今後も継続する。
	施設設備部	災害時の適切な初動対応の確立	(1)東日本大震災の教訓を基に、教職員や生徒に「災害は必ず起こる」という危機意識の醸成を図るため、防災訓練などを実施する。 (2)本当に災害が発生したときに備えた初動対応がとれるようにするため、防災訓練の工夫改善を行う。 (3)生徒一人一人が防災に関心をもてるようにするため、防災訓練時により多くの生徒が体験できるように計画する。	(1)5月と11月(香川県シェイクアウト訓練を兼ねる)の2回予定・計画通り実施できた。 (2)自主防災組織のアドバイスもいただきながら、訓練の内容を検討・実施できた。ただ訓練によって、生徒は見学に終わる場合もあった。 (3)9月に防災講話を行うなど、ほぼ実施できた。	B	全員が訓練に参加できるような内容や、実施方法などを検討する。 今後は訓練時に使用する物資の精選と充実を図る。
	施設設備部	災害時の地域支援	(1)災害発生時に地域住民の避難場所としての役割を果たすため、坂出市危機監理室と連携して、食糧の備蓄などを行う。 (2)地域の自主防災組織などとの連携を深めるため、防災訓練を合同で行う。	生徒、教職員、地域の自主防災組織、坂出市危機管理室をはじめ関係諸機関と連携を図り、取り組むことができた。 テントと同じ部屋に食糧を備蓄しているため、食料の交換に手間がかかった。	A	備蓄食料の交換がスムーズに行えるよう、テントとは別の部屋に食糧を備蓄するか、備蓄庫内の配置や整頓を行う。

重点 目標	分掌	平成27年度 計画		平成27年度 評価		
		目標	目標達成のための具体的方策	成果と課題	評価	課題解決のための方策
魅力ある連携学校づくりの信頼され	渉外部	PTA活動の充実	(1)学校行事を通して教職員との連携を図るため、案内などを通して学校行事への積極的な参加を促す。 (2)坂出地区高P連の登校時合同交通指導及び夏季合同街頭補導などに参加する。	(1)体育祭には昨年の2倍の保護者の参観者があり、坂工展の展示についても役員以外の多くの保護者の協力を得る事ができた。親睦大会にも多くの参加者を得た。 (2)多くの保護者に参加していただくことができた。	A	保護者と教職員のコミュニケーションを一層深めるため、事前に教職員への意識付けをさらに行う。
	電気科	地域との交流	(1)坂工ものづくり教室を充実するため、ものづくりについての情報収集を行う。 (2)体験入学の内容を充実するため、体験内容を吟味し、生徒の説明力も鍛える。	(1)坂工ものづくり教室は、予定通り実施し参加者全員がラジオを完成できた。 (2)体験入学では、短時間ではあるが本校生徒が分担して説明することができた。	A	生徒に体験させながら説明する力を付けさせるため、指導を継続する。
	建築科	地域との交流	(1)地域と交流が図れるよう、「坂工ものづくり教室」などの活動に積極的に取り組む。 (2)生徒主体で説明や活動ができるようにするため、授業や建築部で技術指導を行い、スキルアップを図る。	(1)坂工ものづくり教室では、計画・準備をしっかりと行った。アンケート結果も良好であり、参加者にも満足してもらえた。 (2)建築部の生徒を中心とした3名の生徒が、準備から当日の運営まで参加したが、生徒はまだ「手伝い」の域を脱していなかった。	B	生徒主体でできるよう指導を継続する。また参加生徒も増員する。
	化学工学科	地域との交流と大会への協力と参加	(1)「坂工ものづくり教室」や坂工展での作品製作教室を行う。 (2)企業実習や公害防止技術などの生徒への実技指導講習会を実施する。 (3)課題研究などで他の教育機関との連携を行う。	(1)サンドブラスト作品やアロマキャンドル、ジェルキャンドル作品等製作体験教室を行い、多くの子供たちや地域の方々に参加いただけた。 (2)水質検査やダイオキシン類の処理・測定技術講習会を開催でき、受講した生徒たちが多くのことを学ぶことができた。 (3)他校や大学と連携した課題研究を行うことができた。また、希少糖生産技術研究所の主催する「希少糖甲子園」に参加し、研究発表ができた。	A	生徒の実力向上につながるよう、今後も計画的に地域の外部機関と連携を継続する。
社会人としての規範意識の醸成	生徒指導部	外部との連携による安全教育の充実と規範意識の高揚	(1)全校生徒を対象に、安全教育に関する生徒指導講座を年間3回、交通に関するLHRを年間2回実施する。その際、講座の内容を精選し、警察等の外部機関など幅広く講師を検討する。 (2)現在実施している月1回の校外補導を継続する。	(1)計画どおり、警察等の関係機関による交通に関する安全教育を3回、交通に関するLHRを2回実施した。ただ、自転車による交通事故が多発しているため減少させた。 (2)計画どおり、月1回の校外補導を実施した。	A	(1)安全教育を定着させるために、自転車の交通に関する講座を選定する。また、外部機関の講師を検討するため、他の学校と情報を交換する。 (2)問題行動を未然に防ぐため、引続き他の学校との情報交換を密にし、校外補導を実施する。
	生徒指導部	基本的な生活習慣の確立	(1)遅刻者数を、年間のべ450回以下にするため、集会などで毎回注意喚起を行う。 (2)中途退学者1%以内、年間20日以上欠席者を1.5%以内にするため、生徒指導部に必要に応じて教育相談部に参加してもらい情報を得る。	(1)12月末時点で、昨年の同時期の208回と比較して、遅刻数は158回と減少している。 (2)12月末時点で、中途退学者0.5%、長期欠席者0.2%であり、目標数値以内である。	A	(1)引続き遅刻を繰り返す生徒について、家庭の協力を得ながら遅刻防止に努める。 (2)欠席の多い生徒に対して、職員間で情報を共有し、早目の対応をする。
	教育相談部	教員研修の実施	生徒支援に対する質の向上を図るため、1年に1回以上の教員研修会を実施する。	8月末に丸亀養護学校の特別支援教育コーディネータ2名を招き、「発達障害の特性とその対応」についての研修会を実施した。質疑応答の時間も充実したものになり、参画意識も高まった。	B	発達障害についての知識は深まったので、次年度はさらに職員間で情報の共有の仕方を検討する。
	人権・同和教育部	教員研修の実施	(1)引き続き教職員向けの「人権だより」を年3回発行し、情報発信を行う。 (2)新転任の教職員に対して、現地研修や講義などの現職教育を実施する。	(1)教職員向けの「人権だより」を年3回発行した。 (2)新転任の教職員に対して、西庄にて現地研修会を実施した。	B	新転任以外の教職員も校外の研修会等に多数参加できるよう、朝礼時などに情報や案内などを複数回職員に伝える。
	機械科	基本的な生活習慣の確立	(1)生徒の状況把握のため、実習・清掃時間等を活用し声かけを行う。 (2)気になる生徒の情報を共有するため、定期的に会を開く。	(1)生徒個々に対する声かけが十分行われた。 (2)週1回計画していた機械科会を1年通って実施することができた。	A	職員間で連携をとるために、積極的に時間を確保する。
	建築科	基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成	(1)生徒の状況把握のため、次の①・②を行う。 ①生徒とコミュニケーションをとる。②家庭と密に連絡を取り合う。 (2)生徒の状況を全員が理解し、問題などが起きた時に連携してすぐ対応が取れるようにするため、週に1回程度、科内で情報交換の場を設ける。	(1)①、②ともおおむね達成できた。 (2)週に1回は科の会を設け、生徒の情報交換も行った。	B	(1),(2)基本的な生活習慣や規範意識の低い生徒もまだまだ多いので、引き続き粘り強く取り組む。
5 豊か な 課 外 活 動	特別活動	部活動の活性化	四国大会への出場部数が6以上、全国大会への出場部数が3以上となるよう、部活動指導時間の確保に努める。	四国大会出場部数が運動部で5、ものづくり技術で4、全国大会出場部数が運動部で2、ものづくり技術部で2と、目標を達成した。	A	引き続き活動時間の確保と、専門的な指導ができる顧問の配置を働き掛ける。
その他	事務	施設、設備等の整備	(1)教職員等の要望を調査する。 (2)修理伝票を活用して、校内の情報を収集する。 (3)安全面、衛生面を優先して、施設、設備等を整備する。 (4)学習環境や部活動の環境整備を進めていく。	(1)新年度予算要求時に、調査した。また随時、要望を聞いている。 (2)61枚の修理伝票をもとに、56の施設及び設備の修繕を行った。 (3)建物維持修繕修繕計画を県教委に提出し、5項目のうち4項目の予算を得て、修繕を行った。 (4)黒板の修繕、排水の改善、夜間照明の修繕等を行った。	B	老朽化した施設、設備について、計画的に巡回を行う。